



いなふくみ

2021 春
vol.17



重度認知症患者ディケアはどんな人が利用しているの？

在宅医療連携センター 重度認知症患者ディケア『なのはな』主任 茂木 昭博

「なのはな」の実際の利用についてお話させて頂きたいと思います。

重度認知症患者ディケアはその名の通り、認知症の症状により日常生活を送る事が大変な方の受け入れをしています。また、重度認知症患者ディケアは医療保険であるため、介護保険の介護度とは一切関係なく利用が可能となっています。

介護保険では、身の回りの動作が自分で行える方の介護度は大抵の場合低くなります。そうすると利用できるサービスも限られ、例えば介護度が要支援1の場合、デイサービス等の利用は週1回程度となってしまいます。介護度を決める要素となる介護調査では認知症による意欲低下や対人関係の困難さ、元々の性格や思考等は介護度を上げる項目でチェックしづらく、その結果介護度は低く判定されがちになってしまうからです。

実際のケースでも、一緒に暮らしている家族や関わっている介護者はすごく大変なのに介護度が低いため、希望したい介護サービスはほとんど使えず、本人・家族共に疲弊してしまったとい

うケースは非常に多く見られます。

認知症の方と一緒に暮らす大変さというのは、その家族にしか理解できないものが沢山あると利用者さんの家族から良く聞きます。「なのはな」でもディケア利用中はものすごく優等生な利用者さんが、家では家族が顔も合わせたくないと思うくらいの態度や言葉を発するため、同居しているのが嫌になるという利用者の方がいらっしゃいます。介護度が重いから介護が大変、逆に介護度が軽いから介護は楽と判断するのは早計である気がします。実際のその方を見て関わり、介護度だけでは表せない大変さやその人の良い所に、重度認知症患者ディケアといったものが上手く関わり、家族や本人に有益である存在でいられたら良いのかなと思い、運営を行なっています。

認知症の方がいるご家族で、『関わっていて大変』とか『心配や不安な事がたくさんある』というような方がいらっしゃいましたら、いつでも当院までお声掛け下さい。よろしくお願いします。

今回のトピック



重度認知症患者デイケア なんのはな



重度認知症患者デイケアとは

認知症と診断された方を対象にした医療保険による通所型の施設です。利用者様一人ひとりと密接に関わりながら、"身体とこころ"の両方に介入し、認知症症状の緩和、在宅生活の継続を支援しています。

精神科医師、看護師、作業療法士、臨床心理士、介護スタッフ、送迎スタッフなどが利用者の方と楽しさやあたたかさを共有し、良質なケアを提供させていただきます。



デイケアの1日の流れ

送迎車にて巡回

各自自宅まで伺います

9:30 到着後順次体温、血圧をチェック

10:00 水分補給、朝の会

今日の予定を確認し、カラオケなど集団レク

10:30 午前のプログラム

個別作業や個別リハなど

11:30 水分摂取

12:00 昼食、昼休み

13:30 午後のプログラム

集団体操

14:45 お茶会、帰りの会

今日の振り返りなどを行う

15:30 デイケア出発



利用時間

利用日 : 月～金

(土、日、祝祭日及びお盆、年末年始はお休みです)

利用時間 : 9:30～15:30

※ご家族がお迎えに来ていただけるのであれば
最長18:00までの利用が可能です。

入浴について

入浴サービスを実施しており、スタッフ付添にて入浴介助も行います。

※お一人様 週1～2回。

※その日のご様子や健康状態によって中止する場合
もございます。

※個浴のため、身体機能の状態によっては利用が難しい場合もございます。その際はスタッフよりご相談させていただきます。



例えばこんな場合

毎日デイサービスを使いたいのに関プランだと2回/週しか通えない。

➡ 介護保険と組み合わせ、空いた曜日を利用することで毎日を活動的に過ごせます。

『他の利用者さんに迷惑が掛かってしまうから』と介護保険のデイサービスでは断られてしまった。

➡ 精神科医師、看護師、作業療法士、臨床心理士等が勤務しています。介護保険でのデイケアやデイサービスと比べスタッフの配置が厚めですので細やかな対応が可能です。

毎日利用すると費用が高額になってしまうのでは？

➡ 医療保険が適用されます。また自立支援医療制度が適応になれば一割負担で済む上、一定額以上の負担はかかりません。詳しくは認知症疾患医療センターまでご相談ください。



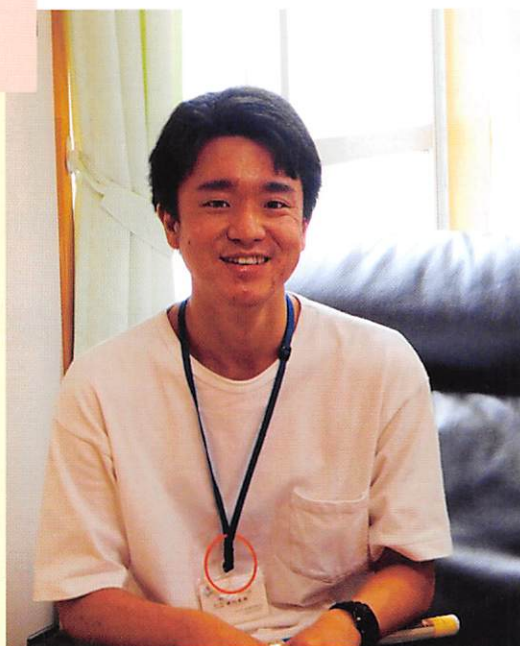
大和会スタッフ紹介

臨床心理士、公認心理師 みどりかわ てつや
緑川 哲哉 さん

「臨床心理士、公認心理師」とは

臨床心理士は主に心理検査や心理面接を行ないます。そして、患者さんの心の状態を心理学の知見に基づいて分析して、助言や指導をしています。つまり、患者さんが自身の心の問題を解決できるようにお手伝いをするのが心理職の仕事です。また、公認心理師（国家資格）が新しくでき、より専門的な支援ができるようになりました。

最近ではメディアで心の問題についての話題がよく取り上げられています。このように悩んでいる方の様々なニーズに応えていくことが求められているのだと思います。そのため、心理士（師）の活躍の場は保健医療の分野だけではなく、教育、産業、司法、福祉などさまざまな職域に広がっています。



悩んでいる方の様々なニーズに応え寄り添い できることは何か日々模索。

この仕事を知ったきっかけ

将来はどんな仕事に就くのだろうと漠然と考えていた頃に「13歳のハローワーク」を読んだことが心理士（師）の仕事を知ったきっかけだったことを覚えています。心理カウンセラーは人の悩みに応え、その人がよりよい生活を送れるように手助けをしていく職業である、という内容を読んだ当時は、“すごいカッコいい仕事だな”というのが初めに抱いた感想でした。そこからいろいろ調べていくと、臨床心理士という資格があること、それを取得するには大学院を修了する必要があることを知りました。



大学院では精神科病院での実習がはじまり、日々のレポートや研究に追われてとても大変でしたが、いろいろな経験を積むことで変化がありました。それは“カッコいい”という憧れから、患者さんと寄り添い、支援していきたいという心理職としての心構えをもてるよう変わってきたことです。現在はなんとか資格を取得することができて心理士（師）として仕事をしていますが、知識や経験はま

だまだです。西毛病院のコメディカルのみなさんのお力を借りながら成長していきたいと思っています。

仕事についての「想い」

現在は重度認知症デイケアなのはなで「否定しないでその人のそのまを受け入れる」という方針のもと、利用者さんの自由を尊重して、やりたいことをしてもらえよう心掛けて関わっています。そして、RO（リアリティ・オリエンテーション）やレクリエーション、体操など午前・午後の活動時間を使って認知機能のリハビリテーションをしています。もちろんずっと穏やかな時間ではありません。気に入らないことがあると怒ってしまう方もいますし、帰宅要求が強く落ち着かない方もいます。このような流動的な日々ですが、利用者さんと一緒に楽しく過ごすことを大切にしています。そして、これからは介護に疲弊している家族の支援や他施設との連携業務も積極的に行っていきたいと思っています。

なのはなでは心理士（師）だからこそできることはあまりないかもしれませんが、利用者さんのためにできることは何かないか、日々模索しています。



じゃがいもの美味しい時期・栄養と効用

じゃがいもの収穫は、春と秋です。保存も効くのでいつでも手に入りそうですが、旬と言えるのは、春の5～6月頃と秋から冬の9～12月頃の年2回です。一般的に新じゃがと呼ばれるものは、春に収穫されたじゃがいもをいいます。1年を通して手に入れやすく、調理方法もたくさんあるじゃがいもを普段の食事に取り入れてみてください。

じゃがいもに含まれる栄養

ビタミンC

じゃがいもには、ビタミンCがたくさん含まれています。その量は、ほうれん草やみかんと同じ位で豊富です。じゃがいものビタミンCは、でんぷんに守られているので、加熱しても壊れにくいのが特徴です。ビタミンCの働きは風邪の予防や疲労の回復、肌荒れなどに効果があります。

カリウム

カリウムは、体のナトリウム（塩分）を出して、塩分バランスを整えるので、高血圧の予防になります。

カロリーは？

じゃがいもの主成分は、ほとんどがでんぷん、いわゆる糖質類になります。しかし、カロリーは同じ量のご飯に比べ半分くらいと低く、サツマイモなどに比べてもずっと低く、かぼちゃと同じくらいで、ダイエット中の方にもおすすめの食材です。



じゃがいもの由来と歴史



南米のアンデス高原がじゃがいもの故郷だとされています。スペイン人がインカ遠征の際にヨーロッパに持ち帰りましたが、フランス宮殿では観賞用として栽培され、マリーアントワネットが髪飾りにしたと言われています。

日本には、17世紀の初めにインドネシアのジャカルタからやってきました。「ジャカルタ

から来たいも＝じゃがたらいも」がなまって「じゃがいも」になったといわれています。



編集後記

じゃがいもといえば昔、縁日の出店で売っていたじゃがバターのことを思い出します。せいろから沸き立つ蒸気からほのかにじゃがいもの匂いがして、食欲をそそられました。昔のことを思い出していたら、久しぶりに食べてみたくなりました。

